

第187回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」開催

お正月前から燻ぶっていた新型コロナウイルス感染肺炎が、じわじわと我が国をも襲い始めています。本来なら豪華客船ダイヤモンドプリンセス号でのクルージングという素晴らしい旅行が、「船」という閉鎖された環境と「ヒト・ヒト感染」というウイルスの特性が明確になったことで、悪戦苦闘を強いられています。ご関係の方々の献身的な努力により、ウイルス対応への的確な処置がなされていますが、医師の疲労、マスクの不足、薬剤不足、情報不足など、一つ間違えばパニックになりかねません。ウイルスの潜伏期間などを考慮に入れた冷静かつ的確なウイルスへの対応が必要ですし、今暫く忍耐を要求されると思われまます。

ここ数日の東日本は寒波襲来の情報が出ており、寒さに注意という2月6日(木)、私たちの俳句サロン「道草」は、新橋ぼる一ん204号室で2月句会を開催しました。気候不順にめげることなく、お元気に参加されたのは、住田先生をはじめ芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、自然の10名です。今日も明峰さんが差し入れて下さった草月の銘菓どら焼き「黒松」が配布されました。明峰さんいつも有難うございます。

先生は冒頭に「先月はパソコンのプリンタが故障をしてしまい、手書きで記録報告を作りました」と、先月1月のご苦勞を話されて「長く愛用していたプリンタを、ついに新しいものを購入、取り換えましたよ」と仰いました。そして「今月の席題は、例句が少ないから、難しいかもしれませんね」と言われ、下述の本日の席題を提示されました。私たちは「えーっ」と一瞬声を上げ、提示された席題を見、そして静かになって、「句作り」という自分の世界に没入していきました。皆さんが詠み、提出された三句の中から、選句され、最終的に天賞句と最多得票賞(☆印)の栄に輝いた句は、次の通りです。

席題1. 「春萌(きざ)す」又は「春めく」

◎『杖捨てて歩きゐる夫春萌す』 多佳 ☆5

席題2. 「海苔」又は「〇〇海苔」

◎『舞ふごとく海苔焙る手の右左』 晶如 天5☆7

◎『香り立つ汽水の海苔のあをあをと』 荻女 天1

席題3. 当季雑詠の自由題句

◎『一人なる時を転がし余寒かな』 明峰 天2☆6

◎『春昼や思い出される父の眉』 幸佳(投句) 天1

◎『春雨やネオン映せるアスファルト』 晶如 天1

◎『貼紙は「マスク売り切れ」春の風邪』 多佳 天1

(道人の一句)

ばりばりと音香ほおぼる海苔手巻 住田道人

本日の皆さんの選句は、上述のように特徴的な結果を導きました。即ち、皆さんの詠まれた句が優れていたというか、団栗の背比べというか、先ずは得票がそれぞれの句に分散したことが一つです。しかし、その中の傑出した表彰句は、指定されたかのように、ある特定の句に集中するという偏りを見せました。従いまして本日受賞した句数は少なく、天賞句、最多得票賞(☆印)句は、合計で7句という限定されたものになりました。

席題1. では、天賞は選句されず、多佳さんの句「杖捨てて歩きゐる夫(つま)春萌(きざ)す」が、高得票の最多得票賞(☆印)句に輝きました。この句はまさに多佳さんのご主人への応援歌ということになりました。この新春から杖つくことなく、お元気に過ごしてい

らっしゃる多佳さんのご主人です。頑張ってください。選外ですが、創風さんの句「春めきて光も変わる気も変わる」が、季語の「春めく」を上手く捉えています。音読すると、中七、下五の「光も変わる気も変わる」が、とても調子良く印象に残りました。

席題2. では、晶如さんの句「舞ふごとく海苔焙る手の右左」が、天賞五つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。この句はまさに、上五の「舞ふごとく」が、まずは「何が舞うのだろう。何の動作なんだろう」と、読み手の興味を引っ張り、次に中七、下五で「海苔焙る手の右左」とたたみ掛けます。「成る程そうなんだ」と読み手を納得させてしまいます。その瞬間、右左と海苔を焙る手は、まるで踊っているような華麗な動作が、頭の中を廻ります。見事な表現とリズムです。

次に、荻女さんの句「香り立つ汽水の海苔のあをあをと」が、天賞一つを獲得されました。この句は、収穫する海苔の深い青の色を、下五で「あをあをと」と、ひら仮名で表現しましたが、この生々しさが選者の琴線を揺さぶったと思います。また「汽水」という語を句の中に入れることで、臨場感たっぷりの句に仕上げました。

席題3. 自由題句では、明峰さんの句「一人なる時を転がし余寒かな」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句は席題2. で、天賞五つを獲得した「舞ふごとく海苔焙る手の右左」と双璧を争う本日の秀句ですが、晶如さんの句を「動の句」、「表の句」とすれば、明峰さんの句は「静の句」、「内の句」であります。独り居るときに感じる孤独感、静寂観は、まさに「寂しい」という一言に尽きるのではないのでしょうか。句中の下五で使った季語の「余寒かな」が、見事にその気持を表現しているのではないのでしょうか。次に投句された幸佳さんの句「春昼や思い出される父の眉」が、天賞一つを獲得されました。季語の「春昼」を上五に置き、下五の「父の眉」で結びました。「父の眉」に示された「存在感」の中に、選者は共感を持たれたと思います。晶如さんの句「春雨やネオン映せるアスファルト」も天賞一つを獲得しました。この句からは春雨の中の都会の夜が浮き出てきます。もの言わぬ都会の夜の光り、どこか春の寂しさが感じられるところに選者は共感されたのでしょうか。もう一句、多佳さん句『貼紙は「マスク売り切れ」春の風邪』が、天賞一つを獲得しました。まさに時評を句にされました。選者はタイムリーな一句に、一票を投じられたのでしょうか。

今月の句会では、住田先生が配布して下さった資料「悩み別作句法」の中にもありますが、俳句に組み入れる「リズム」のことです。句の持つ「調子の良さ」に、注力したいと思います。本日の創風さんの句「春めきて光も変わる気も変わる」の調子の良さに学びましょう。

二次会は、先月と同じく「魚や一丁」のいつもの席での懇談となりました。今日の俳句の話からお酒の話、日頃のサロン活動の話などなど、賑やかな懇談が弾みました。次回は3月6日（金）です。手洗い、うがいの励行、健康に留意して、来月も元気に参加しましょう。

白然記